

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第5区分
 【発行日】令和6年12月4日(2024.12.4)

【国際公開番号】WO2020/247401
 【公表番号】特表2022-538383(P2022-538383A)
 【公表日】令和4年9月2日(2022.9.2)
 【年通号数】公開公報(特許)2022-162
 【出願番号】特願2021-571755(P2021-571755)
 【国際特許分類】

10

A 4 1 D 19/015(2006.01)
 A 4 1 D 19/04(2006.01)
 A 4 1 D 13/08(2006.01)

【F I】

A 4 1 D 19/015 2 1 0 Z
 A 4 1 D 19/04 B
 A 4 1 D 13/08 1 0 1

【誤訳訂正書】

【提出日】令和6年11月26日(2024.11.26)

20

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0061

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0061】

図5は、必要に応じて、上記の実施形態のいずれかに組み込むことができる追加の特徴を備えた手袋の追加の実施形態を示しています。図5は、近位手根骨と中手骨とが出会う関節を中心にして、またはその上に広がるナックル緩和ゾーン120を示しています。

【誤訳訂正2】

30

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

近位骨と中手骨の間の一部に設けられた緩和ゾーン115(図1、図2、図5、図12)は、運動時や作動時に手を曲げたり丸めたりしたときにエラストマー張力(低ストレス収量)を解放することができます。この緩和ゾーンは、手袋の背側と腹側、又は片側のみに配置することができます。緩和ゾーン115は、クロッチ領域を介して連続的(図1を参照)であるか、又は説明したように背側と腹側の緩和ゾーンが分かれている非連続的(図12を参照)にすることが可能です。緩和ゾーン115の一部は、隣接する近位手根骨又は中手骨に部分的に又は完全に侵入することが可能です。得られる手袋の所望の機能に応じて、1つ以上の緩和ゾーン115を手袋/フォーマーの設計に組み込むことができます。この緩和ゾーンは、好ましくは、手本体の長さの1/3~2/3です。

40

50